

3 調査研究事業における取組

(1) 実施要領

G I G Aスクール構想（1人1台端末）下における
『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」調査研究事業実施要領
静岡県教育委員会

1 趣旨

静岡県教育委員会（以下、「県教育委員会」とする。）は、調査研究推進地区教育委員会（以下、「推進地区教育委員会」とする。）及び調査研究推進校（以下、「推進校」とする。）との連携・協力の下、G I G Aスクール構想（1人1台端末）下においてI C T機器を効果的に活用しながら『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」を推進することについて調査研究を実施し、その成果の普及を図ることにより、小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の資質・能力の育成に資する。

2 指定期間

令和3年4月1日から令和5年3月31日までの2年間とする。

※令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間は、令和4年度予算の確保状況により「6 経費」の内容に変更の可能性がある。

3 事業の指定

県教育委員会が、静東教育事務所管内、静西教育事務所管内にそれぞれ小学校、中学校1校ずつ（計4校）を調査研究のための推進校として指定する。（ただし、1中学校区のすべての小・中学校を指定する場合に限り、小学校が2校以上になることも可とする。）また、推進校を所管する教育委員会を推進地区教育委員会として指定する。

4 事業の実施内容

- (1) 本事業においては、「1 趣旨」に基づき、推進校において、1人1台端末下の授業において子供の資質・能力の育成を図るための方策について調査研究を行うものとする。
- (2) 県教育委員会においては、以下のことを行うものとする。
 - ア 学力向上推進協議会を設置し、推進地区教育委員会及び推進校に対して、本事業の円滑な実施のために必要な指導・助言及び成果の検証を行う。
 - イ 推進校に対して、学力向上推進協議会によるサポートチームや教育事務所教育主幹等を派遣し、必要な指導・助言等を行う。
 - ウ 推進校の教員及び児童生徒に対して、授業における学習者用端末の活用状況等について調査を実施する。
- (3) 推進地区教育委員会においては、県教育委員会における実施方針に基づき、以下のことを行うものとする。
 - ア 推進校に対し、本事業の円滑な実施のために必要な指導・助言等を行う。
 - イ 推進校に対し、研究発表等への支援を行う。
 - ウ 学力向上推進協議会に出席し、調査研究への支援状況等を報告する。
- (4) 推進校においては、県教育委員会における実施方針に基づき、以下のことを行うものとする。
 - ア 「1 趣旨」や各学校の状況等を踏まえて、調査研究テーマを設定する。
 - イ 調査研究成果を検証するための成果指標を設定する。

ウ 調査研究テーマに沿って、1人1台端末下における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」を推進し、子供の資質・能力の育成を目指した取組を計画し実践する。

エ 調査研究の成果を検証する。

オ 学力向上推進協議会に出席し、調査研究の状況等を報告する。

5 実施計画書等

(1) 推進地区教育委員会及び推進校は、第1年次の始めに実施計画書、第1年次の終わりに中間報告書、第2年次の始めに実施計画書、第2年次の終わり（事業の終了時）に実績報告書を提出するものとする。

(2) 実施計画書等の様式その他必要な事項については、県教育委員会から別途連絡する。

※中間報告書、実績報告書は、学力向上推進協議会報告書として、県教育委員会義務教育課ホームページにて公表する予定である。

6 経費

以下の費用を、県教育委員会で負担する。

(1) 学力向上推進協議会から派遣するサポートチームの報酬及び旅費（各学校2回以内）

（1中学校区のすべての小・中学校を指定した場合には、学区4回以内）

(2) 教育事務所教育主幹等による支援研修等の旅費（各学校3回以内）

（1中学校区のすべての小・中学校を指定した場合には、学区6回以内）

(3) 調査研究推進校が招聘する講師（大学教授等）の報酬及び旅費（各学校2回以内）

（1中学校区のすべての小・中学校を指定した場合には、学区4回以内）

※研究発表会の実施に係る諸費用や、学校職員の県外視察等にかかる旅費等については、推進地区教育委員会及び推進校負担とする。

7 会計年度任用職員

(1) 本調査研究を推進する教員（研修主任、ICT担当等）の負担軽減のための非常勤講師を配置する。

※1人あたり10時間/週×35週、2,820円/時間、通勤手当週5日分で算定

(2) 第1年次、第2年次ごとに実施計画書・実施報告書を提出する。実施計画書・実施報告書の様式その他必要な事項については、県教育委員会から別途連絡する。

8 調査研究成果の発表

推進校は、調査研究の2年目に調査研究の成果等を発表する。なお、調査研究成果の発表については、県教育委員会が定める「研究指定校の研究実践・成果の公表について」による。

※県教育委員会は、推進校が行う2年間の調査研究後に、推進校の成果等をまとめたものを作成する予定である。

※推進地区教育委員会及び推進校は、学力向上連絡協議会の際に、実践報告等を行う場合がある。

9 その他

(1) 県教育委員会は、必要に応じ、本事業の実施状況等の把握のため、実態調査（推進校訪問など）を行う。

(2) この要項に定めのない事項で事業の実施に必要な事項は、必要に応じ、県教育委員会が別に指示する。

(2) 推進校、推進地区教育委員会の取組（実績報告書）

ア 伊東市

(7) 伊東市立東小学校

I. 2年間の取組の状況

(1) 研究主題

「分かった」・「できた」を積み重ねる中で、学び続ける力を身に付けた子の育成
～GIGAスクール構想下における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

(2) 研究仮説

研究主題にある「学び続ける力」とはどのような力であるのか、次の2つの仮説を立てた。

〔仮説1〕 他者とのかかわりを生かして協働的に学ぶ力

ICT機器を効果的な場面で活用して、子ども同士による意見交換や発表など互いを高め合う学習を進めていくことにより、協働的な学習が促進され、より一層主体的・対話的で深い学びが実現されるであろう。その結果、子どもたちが分かる・できる喜びを積み重ね、「もっと学びたい」という次の学習への意欲を高め、学び続ける力を身に付けていくことができる。

〔仮説2〕 学びの経歴（これまでに身に付けた資質・能力）を自覚し、新たな課題の解決へ向けて学びを調整する力

単元・教科・学年間のつながりを意識した系統的な学習を、ICT機器を活用して進めていくことにより、子どもたちは学びの経歴を自覚し、新たな課題の解決へ向けて学びを調整する力を発揮しやすくなる。その結果、各教科での学習を実社会での課題解決に生かし、生涯を通して学び続けていくための素地がつくられる。

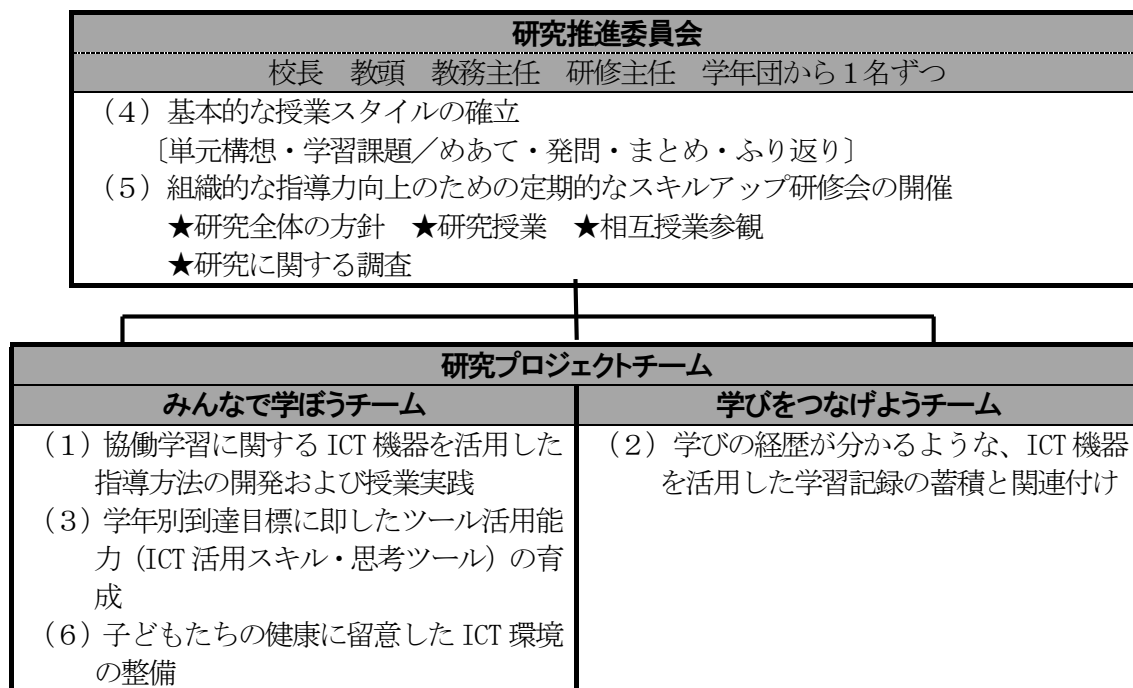
(3) 研究組織〔資料1・2参照〕

本校が考える「学び続ける力」とその力の育成への道筋として2つの仮説を立てて研究を始めた。また、この2つの仮説を実証する研究組織として、令和3年度に、2つの研究プロジェクトチームを立ち上げた。

仮説1に対応した研究内容は、主として、協働学習に関するICT機器を活用した指導方法の開発および授業実践である。「みんなで学ぼうチーム」を中心として、実践を重ねてきた。

仮説2に対応した研究内容は、主として、学びの経歴が分かるような、ICT機器を活用した学習記録の蓄積と関連付けである。「学びをつなげようチーム」を中心として、実践を重ねてきた。

【研究組織図】 ※図内の括弧番号は、研究構想図内の研究内容と対応している。



(4) 研究内容 [研究の取組全体について⇒研究の歩み(資料3・4)参照]

① 仮説Ⅰに関わる研究内容

- | |
|--|
| <p>(i) 協働学習の4場面〔①発表や話し合い、②協働での意見整理、③協働制作、④学校の壁を越えた学習〕において、ICT 機器を活用した指導法を開発し、授業実践を進める。</p> <p>(ii) 授業過程に「対話の時間」を位置付け、身に付けたい資質・能力の習得へ向けてかかわり合う場面を設定する。</p> <p>(iii) 年間指導計画と過去の授業実践資料を結び付けた「データリンク型年間指導計画」を作成する。</p> <p>(iv) 学年別到達目標に即したツール活用能力 (ICT 活用スキル・思考ツール) 育成指標を設け、定期的に活用能力を調査する。</p> |
|--|

(i) ICT 機器を活用した協働学習の4場面と実践事例 [資料5参照]

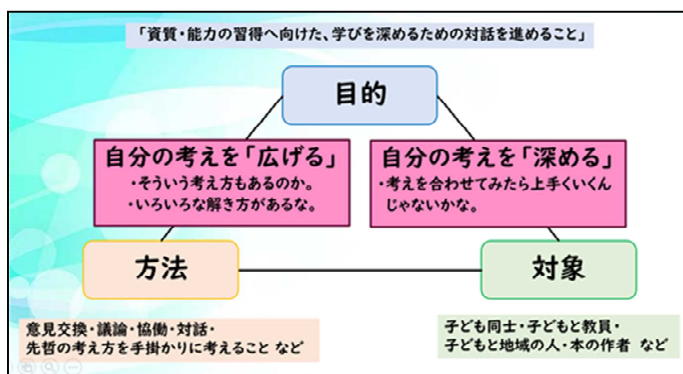
本研究では、文部科学省が行った「学びのイノベーション事業」の類型を参考にし、ICT 機器を活用した指導法の開発を進めた。

(ii) 対話の時間

学習指導要領総則 (p. 77) で示されている「対話的な学び」

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
--

から、本校で推進していく「対話の時間」とはどのようなものであるか共通理解を図ったものが次の図の内容である。



「目的」・「方法」・「対象」を三位一体としてとらえ、実践を進めた。

(iii) データリンク型年間指導計画

子どもたちが学びの経歴を自覚し、新たな課題の解決へ向けて学びを調整する力をつけるためには、教師が**単元・教科・学年間のつながりを意識した系統的な学習**を進めていかななくてはならない。そこで、伊東市の各学年の年間指導計画の単元名を選択すると**ワークシートや挿絵などの教材、研究授業の学習指導案、子どもたちのふり返り**等の「学びの蓄積」が見られるデータを作成した。多くの教員の実践を閲覧し参考にすることで、教材研究を効率的に進めることができ、**教員の働き方改革**にもつながりうると考えている。

①伊東市の年間学習計画にハイパーリンクを設定している。

各教員が、学習を行った際に使ったワークシート等をフォルダ内に保存しておく。

②単元名を選択すると、前年度までのワークシートや挿絵、学習指導案等のデータを見ることができる。

③ファイルをそのまま使うことも、改良して使うこともでき、授業準備が効率的に進む。

4年国語科「白いぼうし」の学習で使用したワークシート等が一覧で表示される。

前年度までの学習内容について把握したうえで、単元計画を立てることができる。

(iv) ツール活用能力 (ICT活用スキル・思考ツール) 育成指標 [資料6参照]

資料6にあるように、それぞれのソフトに関して、学年団別の到達目標を設定し、一覧にまとめた。学習活動を進める際の目安として、全教員で共有し、実践を進めた。この際、使用するソフトが多岐にわたるため、特によく使う「オクリンク」を重点として、取組を進めた。

② 仮説2に関わる研究内容

- (i) 全学年の国語科指導計画を見直し、国語科の「読むこと」と「書くこと」に関する領域について、学年内・学年間の系統性を明確にする。
- (ii) 国語科の「読むこと」と「書くこと」に関する領域を中心とした学習記録を、1人1台端末上にポートフォリオとして残す。
- (iii) 既習事項と関連した内容を学習する際、学びの経歴をふり返る「学びをつなげる時間」を単元の始めなどに位置付け、単元・教科・学年間のつながりを意識する場面を設定する。

(i) 読むこと・書くことの系統表 [資料7参照]

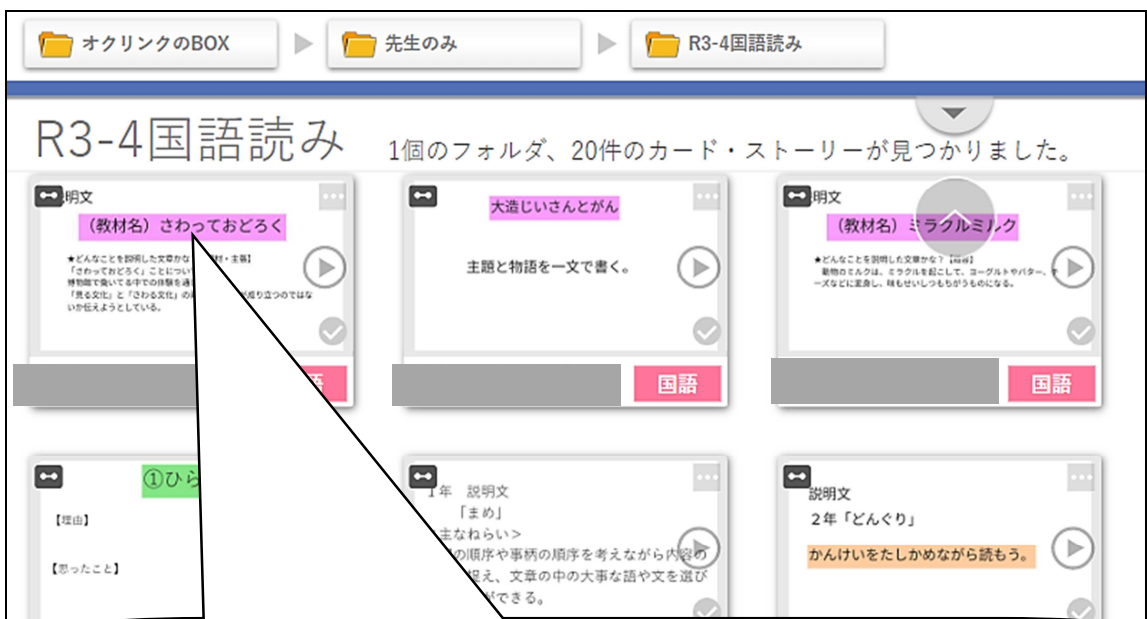
研究仮説2にある「学びの経歴（これまでに身に付けた資質・能力）を自覚し、新たな課題の解決へ向けて学びを調整する力」を育むために、子どもたちが学年内・学年間の学びのつながりを意識して積み重ねていくことが重要であると考えた。そのためには、教員が、子どもの身に付けたい力を明確にし、より一層見通しをもって単元を構想する必要がある。

そこで、全学年の国語科学習計画を見直し、学年内・学年間の系統性を明確にし、一覧表にまとめた。教員は、系統表を確認したうえで単元を構想し、指導後には、重点的に指導した項目に印を付けて、指導実績を残すようにした。

(ii) 読むこと・書くことに関する1人1台端末を活用した学習記録の実例

読むこと（説明的な文章・文学的な文章）・書くことに関する学習を中心として、1人1台端末を活用した学習記録の蓄積を行った。基本的な形としては、単元を通して行った学習や活動について、授業ノートやオクリンク等の端末上の学習記録をまとめ、オクリンク内の「カードBOX」に保存していった。保存した学習記録は、同学年または次学年以降の関連する単元や、他教科の関連する単元の学習を行う際に見直して活用した。

ア)蓄積方法



例えば、4年「さわっておどろく」の学習記録を、5年「東京スカイツリーのひみつ」の第1時で見直し、説明的な文章における問いや事例についての学習を思い起こすために活用した。

イ) 一単元における学習記録の実例



この単元では、①題材と主張、②概要、③事例、④筆者の考えとそれに関する自分の考えについてまとめたカードやノートの写真を4枚のカードで保存した。

ウ) 「学びをつなげる時間」の実例 [資料8参照]

主に、単元の初めに、学びの経歴をふり返る「学びをつなげる時間」を位置付け、過去の学習を思い起こし、単元・教科・学年間のつながりを意識する場面を設定した。

2. 2年間の成果のまとめ

学習に関する児童向け調査、ICT機器活用能力調査、学力調査、研究授業、相互授業参観をもとに、研修内容の評価と改善を進めてきた。

(1) 仮説Iについて

①ICT機器を使う授業が当たり前になった

児童向け調査	今年度に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。					
	とても 当てはまる	まあ 当てはまる	あまり 当てはまらない	全然 当てはまらない		
全校結果	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	35.0	60.8	4.2	0.0	3.31	95.8
現在	56.9	40.3	1.4	1.4	3.53	97.2

ICT機器を「活用」する前段階として、まずは使ってみることで、子どもも教師も機器やソフトの特徴をつかむことができると考える。そういった面で、ICT機器を使った授業が本校に浸透したことが、成果として挙げられる。

②ICT機器を「使う」段階から、身に付けたい資質・能力を育成するために「使いこなす」段階へとステップアップできた

研究授業のまとめ[資料9参照]や実践事例にもあるように、実践を重ねるにつれて、ICT機器をただ使うのではなく、身に付けたい資質・能力を育成するために、どのように使いこなしたらよいかを考えるようになり、研究が深まっていった。

③児童が対話への参加意識を高めた

児童向け調査	コンピュータなどのICTを使うことによって、友達と対話を深めていますか。					
	とても 当てはまる	まあ 当てはまる	あまり 当てはまらない	全然 当てはまらない		
全校結果	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	30.0	38.3	23.3	8.3	2.90	68.3
現在	44.4	40.3	13.9	1.4	3.28	84.7

ICT機器を活用することで対話を深めることができた、子どもたちが実感していることが読み取れる。

児童向け調査	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。					
全校結果	とても当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	全然当てはまらない		
	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	24.5	48.4	26.5	0.6	2.97	72.9
現在	35.7	46.9	14.3	3.1	3.15	82.7

さらに、学習場面の対話で身に付けた力は、学級生活にもよい影響を生み出した。学習指導と生徒指導が両輪として機能していることを再認識できた。

(2) 仮説2について

① 学びをつなげる意識が高まった

児童向け調査	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。					
全校結果	とても当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	全然当てはまらない		
	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	33.3	54.2	9.2	3.3	3.18	87.5
現在	38.9	51.4	9.7	0.0	3.29	90.3

児童向け調査	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。					
全校結果	とても当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	全然当てはまらない		
	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	40.9	43.3	12.2	3.7	3.21	84.1
現在	43.9	44.9	7.1	4.1	3.29	88.8

研究授業のまとめ〔資料9参照〕や実践事例にもあるように、研究実践を重ねるにつれて、学びをつなげながら思考し、学習に取り組む子どもたちの姿が見られた。

学びをつなげる時間の設定や授業の終末場面における目的を意識した学びをつなげるふり返りの工夫によって、授業が点で終わらず、「授業と授業」や「授業と生活」がつながるようになったことが成果として挙げられる。

② 読むことに関する学力の高まりが見られた

仮説2に基づいた実践を進めるにあたって、本校児童の実態に基づき、国語科の読むことに関する学習を重点領域として研究実践を進めた。

次の表は、静岡県小学校国語定着度調査の読むことに関する問題について、本研究開始前年度と昨年度の結果を比較したものである。本校と県資料提供校の平均正答率の差をまとめてある。

静岡県小学校 国語定着度調査	読むことに関する問題 本校と県資料提供校の平均正答率の差				
	現2年	現3年	現4年	現5年	現6年
令和2年度(開校後の)		-11.4	-0.4	-19.3	-4.9
令和3年度	5.8	-11.8	11.1	-10.2	-1.5
前年度との差		-0.4	+10.7	+9.1	+3.4

一調査の結果ではあるが、明らかに大きな伸びが見られ、重点領域を設定して授業改善を図ったことが、児童の読む力の高まりにつながったと考えられる。

そして、研究テーマにもあるように、「分かった」・「できた」学習経験は、学習が「楽しい」・「好き」

という気持ちを生み出し、「分かる」と「好き」の相乗効果を生み出した。これは、学び続ける原動力になると確信している。

児童向け調査	国語の授業の内容はよく分かりますか。					
全校結果	とても 当てはまる	まあ 当てはまる	あまり 当てはまらない	全然 当てはまらない		
	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	42.7	47.0	8.5	1.8	3.30	89.6
現在	41.8	54.1	2.0	2.0	3.36	95.9

児童向け調査	国語の勉強は好きですか。					
全校結果	とても 当てはまる	まあ 当てはまる	あまり 当てはまらない	全然 当てはまらない		
	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	31.7	34.1	23.2	11.0	2.87	65.9
現在	36.7	37.8	16.3	9.2	3.02	74.5

③他教科への広がりを生み出していきたい

児童向け調査	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。					
全校結果	とても 当てはまる	まあ 当てはまる	あまり 当てはまらない	全然 当てはまらない		
	4	3	2	1	平均値	4+3
研究開始時	47.6	36.6	13.4	2.4	3.29	84.1
現在	53.1	32.7	10.2	4.1	3.35	85.7

②で読む力の伸びについて述べたが、他の教科においても、系統性を意識して学びをつなげる実践を重ねていくことが、今後のテーマであり課題であると言える。

3. その他 ～持続可能な研修へ向けて～

研究発表はゴールではなく、通過点である。

研究発表へ向けて高めてきた思いや創り上げてきたものが、よりよい教育活動を生み出す原動力となるよう、つなげていきたい。近年しきりに叫ばれている「持続可能」という考え方は、研究の場にも通じるところがあると考える。

研究発表で浮かび上がった成果と課題を今後の教育実践に生かし、子どもたちが着実に資質・能力を身に付けていくことが大切である。そのため、子どもたちだけでなく、わたしたち教師も「学び続ける」ことを楽しんでいきたい。

本校だけでは微力な学び続ける輪を、市内各校・県内各校へと広げ、ともに伊東の子どもたち、静岡の子どもたちを支えていけるチームになることを願っている。

【資料1】 令和4年度 伊東市立東小学校 研究構想図

【学校教育目標】 心豊かで たくましく 共に高め合う東っ子
 【重点目標】 自分・友だち再発見 ～成長と友情の花を咲かせよう～

<p>【研修内容に関する児童の実態】 〔低学年〕意欲的に学習に取り組む。しかし、自分の考えや意見をもつことが苦手な児童が多い。 〔中学年〕学習に意欲的に取り組む児童とそうでない児童が分かれている。また、自分の考えをもっているが発表する児童は少ない。 〔高学年〕着実に学習を進めるが、自ら学ぼうとする意欲が低い。また、自分の考えに自信がもてず、友達と学び合うことが難しい。</p>	<p>【めざす子どもの姿】 ○分かる・できる喜びを実感し、学び続けていく子。 ○見通しをもって、粘り強く追究に取り組んでいく子。 ○間違ふことを恐れず、課題解決にたどりつく過程を大切にすること。 ○自分の考えや意見を進んで発表し、協働的な学びの中で新たな発見や豊かな発想を生み出し、自己有用感を高めていく子。</p>
---	---

【研究主題】
「分かった」「できた」を積み重ねる中で、学び続ける力を身に付けた子の育成
 ～GIGAスクール構想下における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

【研究仮説】 本校が考える「学び続ける力」とその力の育成への道筋

<p>(1)他者とのかかわりを生かして協働的に学ぶ力 ICT機器を効果的な場面で活用して、子ども同士による意見交換や発表など互いを高め合う学習を進めていくことにより、協働的な学習が促進され、より一層主体的・対話的で深い学びが実現されるであろう。その結果、子どもたちが分かる・できる喜びを積み重ね、「もっと学びたい」という次の学習への意欲を高め、学び続ける力を身に付けていくことができるだろう。</p>	<p>(2)学びの経歴(これまでに身に付けた資質・能力)を自覚し、新たな課題の解決に向けて学びを調整する力 単元・教科・学年間のつながりを意識した系統的な学習を、ICT機器を活用して進めていくことにより、子どもたちは学びの経歴を自覚し、新たな課題の解決に向けて学びを調整する力を発揮しやすくなるであろう。その結果、各教科での学習を実社会での課題解決に生かし生涯を通して学び続けていくための素地がつけられるであろう。</p>
--	---

【研究内容】 研修の日常化

<p>(1)協働学習に関するICT機器を活用した指導方法の開発および授業実践 ★①発表や話し合い、②協働での意見整理、③協働制作、④学校の壁を越えた学習において、ICT機器を活用した指導法を開発する。そして、必要に応じて、子どもたちに機器の使用方法を習得する時間を設ける。 ★授業過程に「対話の時間」を位置付け、身に付けたい資質・能力の習得へ向けてかかわり合う場面を設定する。この時間については、子どもたちから求めることが望ましいものとらえる。</p>	<p>(2)学びの経歴が分かるような、ICT機器を活用した学習記録の蓄積と関連付け ★本校の子どもたちの実態に基づき、各教科の重点領域を設定する。 ★その領域に関する学習記録を、1人1台端末を使ってポートフォリオする。 ★既習事項と関連した内容を学習する際、学びの経歴をふり返る「学びをつなげる時間」を単元の初めに位置付け、単元・教科・学年間のつながりを意識する場面を設定する。</p>
<p>(3)学年別到達目標に即したツール活用能力(ICT活用スキル・思考ツール)の育成 ★ツール活用能力育成の指標と年間指導計画の作成・実施 (4)基本的な授業スタイルの確立〔単元構想・学習課題／めあて・発問・まとめ・ふり返り〕 ★深い子ども理解・教材理解に基づき、身に付けたい各教科等の「資質・能力」を明確にした単元構想 ★子どもから各教科等の「見方・考え方」を引き出す学習課題 ★思考・判断・表現の内容を焦点化できるような発問 ★内容を明確にした協働や対話活動 ★学習課題と対応したまとめ ★目的を意識した学びをつなげるふり返り (5)組織的な指導力向上のための定期的なスキルアップ研修会の開催 (6)子どもたちの健康に留意したICT環境の整備</p>	

【検証方法】 子どもの姿に基づく評価
 1. 授業に関する調査(学習意欲・学びの実感・ツール活用能力) 2. 学力調査 3. 研究授業 4. 日常的な相互授業参観

<p>研修の土台</p>	<p>★基礎的・基本的な知識・技能の定着〔学びの育成部〕 ★学習環境のユニバーサルデザイン化〔心の育成部〕 ★学級活動を大切に学級経営〔生き方・関わり方育成部〕</p>	<p>☆ユニバーサルデザインチェックの実施 ☆人間関係づくりプログラム質問紙調査の実施及び結果分析</p>
--------------	--	--

【資料2】 チームプロジェクトの歩み

令和3年度		
月	みんなで学ぼうチーム	学びをつなげようチーム
8	チーム発足	チーム発足
9	I C T機器を活用できる単元を構想し、活用の場面や方法について話し合い、実践を進めた。	定着度調査の分析を行い、国語科の「読むこと」と「書くこと」を、学習記録を残す重点領域とした。
10	I C T機器活用スキル調査の問題を作成した。 データリンク型年間学習計画の作成を提案した。(⇒28 ページ参照)	子どもの学びの経歴を「見える化」して、以降の学習へつながる残し方を探すため、さまざまな学習記録の蓄積のしかたを試した。
11	ドキュメントとスライドを用いた指導法について、学びをつなげようチームに対して伝達研修を行った。	蓄積した学習記録をもとに、どのように蓄積を進めていくとよいか、以降の方針を定めた。
12	オクリンクとムーブノートを用いた指導法について、学びをつなげようチームに対して伝達研修を行った。	全学年の国語科指導計画を見直し、「読むこと」と「書くこと」に関する領域について、学年内・学年間の系統性を明確にした。(⇒32・33 ページ参照)
1	I C T機器を活用した授業の実践記録シートを作成し、チームメンバーが先行実施した。	国語科の説明文・物語単元で使用できる学習記録のフォーマットを、ミライシードのオクリンクで作成した。
2	I C T機器を活用した授業の実践記録をデータリンク型年間学習計画とリンク付けし、共有できるようにした。	フォーマットを活用した学習記録の蓄積を進めた。
3	今年度の実践をまとめ、次年度の方針を決めた。	今年度の実践をまとめ、次年度の方針を決めた。

令和4年度		
月	みんなで学ぼうチーム	学びをつなげようチーム
4	「対話の時間」とは、どのようなものかを共有した。	「学びをつなげる時間」とは、どのようなものかを共有した。
	チーム主催で、「新学期に早速できる I C T機器活用法の体験会」を開催した。	学習記録を使い・残す授業実践の実例を紹介した。
5	協働学習に関する I C T機器を活用した指導方法の開発を進めた。	チーム主催で、「説明文単元の教材研究体験会」を開催した。
	データリンク型年間学習計画の整備を行った。	第1回校内研究授業で、「学びをつなげる時間」を取り入れた提案授業を行った。
	協働学習における I C T活用の4類型について、実際にどのような展開が想定されるか、授業の計画を立てた。	1学期前半に行った「読むこと」と「書くこと」の授業実践をまとめ、成果と課題を明らかにした。
6	研究発表へ向けた見通しを立て、実践のまとめ方や役割分担を話し合った。	
7	実践を進めるとともに、実践記録を整理した。	
8	本研究発表へ向けて、資料の作成を進めた。	
9	本研究発表へ向けて、資料の推敲を進めた。	
10	本研究発表へ向けて、資料の推敲を進めた。	
11	本研究発表	

【資料3】 令和3年度 研究の歩み

月	実践内容	備考
4	研究1年目開始	
5	第1回児童向け学習アンケート GIGAスクール導入研修 ツール活用能力の指標を作成	
6	1人1台端末に関する実技研修 共有フォルダ内に授業板書の蓄積を開始 児童のICT使用環境の調査 遮光カーテンの設置	
7	第1回校内研究授業 第2回児童向け学習アンケート 第1回ユニバーサルデザインチェック	3年1組 野田 和紀 教諭 算数科「たし算とひき算」
8	研究構想の見直し 研究プロジェクトチーム発足 「みんなで学ぼうチーム」 「学びをつなげようチーム」	児童と教員の実態に合わせて、年度当初の研修構想図を改善した。 一人一人が参画し組織的に実践を進めるために、仮説に基づいた2つのチームを立ち上げた。
9	第2回校内研究授業 1人1台端末の使用に関する保健指導	5年1組 藤本 貴博 教諭 社会科「わたしたちの暮らしと水産業」
10	第1回要請訪問 1年生を除く全学級公開 第3回校内研究授業 第1回ICT機器活用スキル調査 ・タイピング ・ソフト活用スキル	ICT機器を活用した授業実践について助言をいただいた。 3組 浦江 真美子 教諭 国語科「4コマまんが作文」
11	第2回要請訪問 兼 第4回校内研究授業	1年1組 土屋 博彦 教諭 算数科 「ひき算」
12	伊東市教科研究員公開授業 兼 第5回校内研究授業 第2回ユニバーサルデザインチェック	4年1組 工藤 裕平 教諭 体育科 「テニピン」
1	中間発表会 兼 第6回校内研究授業	2年1組 米澤 茜 教諭 国語科「お手紙」
2	研修評価 次年度の方向性の決定	
3	第3回児童向け学習アンケート 第2回ICT機器活用スキル調査	

【資料4】 令和4年度 研究の歩み

月	実践内容	備考
4	研究2年目開始 年度当初の共通理解 チームプロジェクト1・2 第1回児童向け学習アンケート 第1回ICT機器活用スキル調査	
5	第1回要請訪問 兼 第1回校内研究授業 チームプロジェクト3・4	5年1組 沢田 恭介 教諭 国語科「東京スカイツリーのひみつ」
6	第2回要請訪問 兼 第2回校内研究授業 相互授業参観 推進期間1 第1回ユニバーサルデザインチェック チームプロジェクト5・6 姿勢についての保健指導	3年1組 藤本 貴博 教諭 社会科「店ではたらく人」
7	第2回児童向け学習アンケート 第2回ICT機器活用スキル調査 チームプロジェクト7・8	
8	研究発表資料作成開始	
9	第3回要請訪問 兼 第3回校内研究授業 チームプロジェクト9・10	6年1組 岩瀬 好幸 教諭 国語科「名づけられた葉」
10	相互授業参観 推進期間2 第2回ユニバーサルデザインチェック チームプロジェクト11・12	
11	研究発表会 2年1組 木村 慎太郎 教諭 4年1組 小松 祥太郎 教諭 4組 米山 妙子 教諭 チームプロジェクト13・14	算数科「かけ算」 国語科「ごんぎつね」 国語科「学校紹介をしよう」
12	チームプロジェクト15	
1	第3回児童向け学習アンケート 第3回ICT機器活用スキル調査 相互授業参観 推進期間3 第3回ユニバーサルデザインチェック チームプロジェクト16	
2	研修評価 次年度の方向性の決定 チームプロジェクト17	
3	チームプロジェクト18	

【資料5】 ICT 機器を活用した協働学習の4場面と実践事例

▶ C1: 発表や話し合い

グループや学級全体での発表・話し合い

▶ C2: 協働での意見整理

複数の意見・考えを議論して整理

▶ C3: 協働制作

グループでの分工、協働による作品の制作

▶ C4: 学校の壁を越えた学習

遠隔地や海外の学校等との交流授業

① C1 発表や話し合い

事例1	デジタルホワイトボードを活用した個々の考えの共有による新たな考えへの気づきを得るための協働学習
単元	4年 生活科 「あしたへジャンプ」(9/9/20時)
学習内容	幼い頃の自分について、家の人に質問したいことを考えよう。 ①小さい頃の自分について、知りたいことを出し合おう。
活用機器	デジタルホワイトボード
ソフト名	ジャムボード(デジタルホワイトボード)
学習の流れ	①授業前に、ジャムボード上に「生まれた頃」と「保育園・幼稚園の頃」という区分で絵を作る。 ②授業では、家風に質問したいことを書いてカードに書き、ボードに貼る。家人で絵を分け、3、4人グループで行う。 ③自由に他のグループのボードを見る。 ④質問することを決め、ノートにメモする。(友達考えた質問を取り入れてもよい)
学習の様子	
子どものあり方	・質問することが決まったので、家で聞いてみたいと思った。 ・〇〇さんの考えた質問が面白いと思った。私も聞いてみたい。
成果	・一人一人が自分の考えを表現することができた。 ・ジャムボードでは友達や他グループの案も見ることもできたため、友達考えた質問を取り入れ、考えを広げることができた子がいた。
課題	・ジャムボードは同時編集ができるため、トラブルが起きやすい。必ず事前指導が必要であると感じた。
備考	・授業後に家族へ質問をし、それをもとに自分の成長を再考にまとめた。

② C2 協働での意見整理

事例1	デジタルホワイトボードを活用したグループ内の意見整理による学習内容への思考を深めるための協働学習
単元	5年 特別の教科 道徳 「のりつけられた紙」
学習内容	「正義・誠実」について考える。 ①登場人物のよさや正義について話し合い、自分なりの考えをまとめる。
活用機器	デジタルホワイトボード
ソフト名	ジャムボード(デジタルホワイトボード)
学習の流れ	①正義に言えたこと、言えなかった理由について話し合い、まとめて制作する。 ②本教材を読み、登場人物の心情と謎の裏面を確認しておく。 ③物語として考えさせる。登場人物のよさや正義について自分なりの考えをまとめる。 ④グループごとに、それぞれに自分の気持ちや考えをメモし、議論も記入した上で、改めて話し合った内容を、ボードに表示しながら全体で共有した。
学習の様子	
子どものあり方	・思ったままではない。思ったよりも話し合いが難しく、改めて考えた方がいいと思った。 ・途中で正直に言えなかったけれど、結局に言いづらかったりもよく分かるなと思った。 ・〇〇さんの意見が面白くて、悪い道徳をいけぬのは聞いてもいけぬけど、道徳を聞いてみようかなと思った。正直に言えないのはいいなと思った。
成果	・話し合いがスムーズに進み、話し合いが深まった。話し合いの過程で意見がまとまりやすくなり、道徳上での学びが深まった。 ・考えがまとまったと、編集で絵を貼ることができ、前に思っていたよりも話し合いがスムーズに進んだ。意見交換がスムーズに進んだ。
課題	・話し合いがスムーズに進まず、話し合いが深まらなかった。話し合いの過程で意見がまとまりやすくなり、道徳上での学びが深まった。

③ C3 協働制作

事例2	アニメーションアプリを用いた協働制作による自分たちが表現したいことを表現するための協働学習
単元	5年 図画工作科 「あそびが 遊ぶ」(全5時間)
学習内容	対象物を少しずつ動かして撮影し、複数の写真をつなぎ、アニメーションを作成する。
活用機器	デジタルホワイトボード
ソフト名	KOMA KOMA (アニメーションアプリ) (https://www.21.nichitsu.co.jp/kamakara/app/)
学習の流れ	① デジタル教材を使って、アニメーションの仕組みを知る。 ② 動きや変化を考えたから、個々でアニメーションをつくる。 ③ 友達と協力して作り出したという子どもたちの思いを話し、グループでの制作に意欲を高める。 ④ 互いに意見を話し合い、それぞれが作品をつくり、それを組み合わせることで一つの作品にする。 ⑤ 電子黒板を使用し、全席で作品を鑑賞する。
学習の様子	
子どものあり方	・子どもが積極的に活動した。すでに作った作品を見ることができると、嬉しかった。よりよい作品作りが楽しかった。お互いに見合っていて、共感しやすかった。
成果	・タブレットはカメラ位置を固定しにくいため、撮影位置を工夫しないと作品を作れない。
課題	・撮影位置を固定し、撮影位置(バーティカル)を固定し、その上にタブレットをのせて撮影することで、タブレット操作が固定され撮影しやすくなる。

④ C4 学校の壁を越えた学習

事例1	学習プラットフォームを活用した学校交流による伝えたいことを表現するための協働学習
単元	4年 外国語活動 「This is my favorite place.」(4/4時間)
学習内容	小学校の教室に入り込む場所を、他の学校と紹介する。 ①小学校の教室に入り込む場所を、小学校と小学校の友達に紹介しよう。(学校紹介を受けた小学校の友達と一緒に実施した。)
活用機器	学習プラットフォーム
ソフト名	クラスルーム(学習プラットフォーム)
学習の流れ	①各校の4年生が入ることのできるクラスルームを作成しておく。 ②自分の、他の学校に紹介したい場所を伝えたいことを考える。 【例】Hello, I'm 4. This is my favorite place, the gym. I like basketball. What sports do you like? Thank you. ③自分が紹介したい場所を、1人1枚の写真を添えて投稿を行う。 ④撮影した動画を、他のクラスルームに投稿する。 ⑤他校の友達と連絡を取り、自分の学校にもクラスコードを伝えてもらい、紹介動画を観る時間を決めてもらう。 ⑥動画を観た学校の児童は、コメント欄に感想や質問を打ち込む。 ⑦自分の児童は、お礼や質問への返事を打ち込む。 ⑧公開設定を済ませたら、クラスルームをアーカイブに移動させ、子どもたちが閲覧や投稿を行えないようにする。
学習の様子	
子どものあり方	・小学校紹介したい/聞きたいという場所の子どもの声も聞こえるのが面白かった。実際に会った友達と交流できた。
成果	・動画の活用は、子どもたちの活動意欲を高めるものであった。 ・コメント欄を活用して、活発的なやり取りができた。
課題	・コメント欄に返信はしたが、導入段階のやり取りには確かな効果を感じることができなかった。

(文部科学省「学びのイノベーション事業」)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408183.htm

【資料6】 ツール活用能力 (ICT活用スキル・思考ツール) 育成指標

東小ICT活用能力 学年別到達目標			
ソフト名	低学年	中学年	高学年
 グーグルクローム (検索ソフト)	クロームを開き、かな入力で検索することができる。	ローマ字入力で検索・調べた画像をドライブに保存することができる。	目的に応じて検索・引用したり、画像をドライブに保存したりすることができる。
 クラスルーム	クラスルームに入り、選択式の質問が書かれたワークシートに答え、提出することができる。	クラスルームに入り、選択式や記述式の質問に答え、提出することができる。	クラスルームに入り、様々な課題(新聞作り等)に答えたり提出したりすることができる。
 フォーム (ワークシート・アンケート作成、集計ソフト)	選択式の質問に答えることができる。	選択式・記述式の質問に答えることができる。	質問に答えたり、目的に応じてフォームを作成し、意見を意見交換や、全体の意見を集計して学習に生かすことができる。
 スライド		スライドに学んだことを1枚のポスターとしてまとめることができる。(1人・グループ)	伝えたいことをスライドで発表することができる。(1人・グループ)
 ドキュメント		共同編集して、文書を作ることができる。	共同編集したり、個人で進めたりして、クラスルームに提出して共有したり、ドライブに保存したりすることができる。
 ドライブ		マイドライブにデータを保存したり、保存したデータを活用したりすることができる。	マイドライブと共有ドライブを使い分けて保存・活用することができる。
 ジャムボード (デジタル版ホワイトボード)	1つのジャムボードにグループで手書き入力し、意見交換することができる。	1つのジャムボードにタイピングで記入し、意見交換することができる。	課題についてグループでジャムボードに意見交換して考えを深め、まとめたものを提出することができる。
 オクリンク	教師に配布されたワークシートを先生に提出することができる。	自分の考えを入力し、意見交流することができる。	対話を通して考えを深めたり、画像や図表を活用して考えをまとめたりすることができる。
 ムーブノート	タイピング不要の簡単なワークシートに答え、友達の意見を共有することができる。	ワークシートに回答し、考えを出し合うことができる。	ワークシートに回答し、対話を通して考えを深めたり、まとめたりすることができる。
基本的な操作	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチパッドでポインターを動かすことができる。 ・クリック、ダブルクリック、スクロールができる。 ・カメラで写真、動画を撮ることができる。 ・ログイン、ログアウトができる。 ・手書き入力ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字入力ができる。(1分間で25文字) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字入力ができる。(1分間で50文字)

【資料7】「読むこと」・「書くこと」の系統表

文学作品の系統性													
必要に応じて列の付け加えをお願いします。													
学年	教材名	題名・内容	著者・訳者	形態・頁数	読み方 (方法、原理原則)								
					はじめの一部分を読み取る	終わりの一部分を読み取る	登場人物について読み取る (行動・様子・心情)	会話文に留意する	語り手の視点を読み取る	場面や語り手の変り(時・場所・様子)を読み取る	中心人物と対人物の関わりを読み取る	語り出しの表現を読み取る (語)	叙述・描写の効果 (行動・心情・情景)を読み取る
					物語の成立 登場人物の設定や状況	中心人物の死後後の姿を読み取る	中心人物を読み取る (+変化)	構成を読み取る	中心人物の変化 (+構成)				
因果関係が分かる													
1	はじめは「や！」 (ようすを おもいうかべて よもう)	○	◎	○			○	○			○		
	ろくべえまっとうよ (ぼんちの よろすを おもいうかべてよもう)	◎	◎	○			○			○		◎	
2	スイミー (おぼろしと えくら きりぎりして よもう)	○	◎	○	○		◎	○		◎		◎	
	山のとしょかん (お話 クイズ大会を しよう)	○	○	○			○			○			
	ヤマダノオロチ (むかしの ものがたりを たのしもう)	○	○				○						

書く単元の系統性												
経典・出来事系 観察・調査系 手紙系 物語作成系 意見・提案系 詩 新聞など 表記・技能など												
学年	教材名	題名・内容	著者・訳者	形態・頁数	主な学習内容	学習用語、多様に生かせるものなど						
						内容	構成	記述	表記・技能			
2	いろいろな日記をかこう (まようを のこそう)	◎	○		・日常生活の中から書くことを見つけて書く (題材設定: 「〇〇日記」, したこと, 見たこと, 気持ち) ・文と文の続き方, 表記	題材 連続 (したこと, 見たこと, 気持ち)			段落			
	ことばのまじり: 主題と述語		○		・文の構造 (主題・述語) を理解, 適切に使う				主題 述語			
	しらべよう, まとめよう, 生きもの的一生 (しらべて 書こう) ※読み見渡: はたるの一生	○	◎	○	・調べた生きもの一生をまとめる (情報収集) ・成長の順序をもとに, 整然な構成を考えて書く	情報 (集める, 選ぶ)	た・ま・り 順序よく書く (成長の順序)		段落 漢字の言葉 (同義列)	読み書き		
	レ:書き出しを くふうしよう (文しょうの 書き方・まとめ方)		○	◎	・書き出しの表現を工夫し, 読み手が読みたくなるようなよりよい文章を作る					書き出し の表現		
	レ:げんこうようしの つかい方 (文しょうの 書き方・まとめ方)			◎	・原稿用紙の使い方や表記の仕方を知り, 間違いを直す					原稿用紙 の活用		
	ふだんのできごとをしょうかいしよう (ようすが わかるように 書こう)	○	○	◎	・様子が伝わるように, 順序や書き表し方を工夫する (出来事, 様子, 気持ち, 会話)	題材 連続 (したこと, 様子, 気持ち)		順序よく書く (したことの意味)	段落 会話文	文		

【資料8】「学びをつなげる時間」の実例

① 読むこと(文学的な文章) 6年生			
事例3	単元名「紫約書」(6時間)		
【学びをつなげる時間の構想】			
時	本時の目標	学びのつながり	主な学習活動とICT機器の活用 ★：学びをつなげる ○：学習課題、発問
1	人物同士の関係、回想形式の語りなどを考えながら読み、物語の大体を探えようとしている。	・「注文の多い料理店」(5年)	★福の話を通して、ファンタジーの証を得る。 ○現象と調査考の入り口を見つけ、根拠を見いだすには、どうすればよいのだろうか。
2～5	物語の感想を伝え合い、共通点や相違点から自分の考えを深めることができる。	・「注文の多い料理店」(5年) ・対時の学習 ・読書指導	★「注文の多い料理店」と比較しながら読む。 ○観点を絞って感想をまとめ、分けるように友達に伝えるには、どうすればよいのだろうか。
学習の様子	<p>「まただが、トラブルの発着の正体を解き明かすには、どうすればよいのか」と課題を立てた子どもたちは、既習学習と比較し、協働的に解決していった。</p> <p>1. 「注文の多い料理店」と似ているところは、現実とファンタジーの世界を行き来しているところ。2. 君君の正体は政孝さんが契約を結んだ君君。3. 飼えないなら、やたらに子猫を抱くというのを伝えに来た。</p> <p>3. そう考えたのは、p23後ろから1行目の「よかつた」。ちょうど契約書のこと、おたくに電話しようと思ったところだったんですよ。さあ、中はどうぞ。」で電話しようとしているけれど、何故政孝さんは子供の時か</p> <p>ら顔は変わっているはずなのに、ひと目で分かっている。正孝さんが契約を守っていないことが分かって、動物を大事にするよう教えに来た。4. 今回の、自分の考えが友達のおかげで固たと自分の確信をつけて考えることができた。</p>		
ふり回り	・「紫約書」は、5年生で習った「注文の多い料理店」と似ていて、人間が動物の命を軽く扱うことを、ファンタジー形式で警告していると思いました。		
成果	ジャムボードを用いることで、短時間で多くの友達に考えを伝え、協働的に自分の考えを再構築し、付けた力を獲得する姿が見られた。		
課題	ICTを用いることで、対話が1人1台端末の画面を通してものでも成り立つ故に、話みに込めた思いがより伝わる文章力の向上が求められる。		
課題	対話を4観点に絞った。①「注文の多い料理店」との相違点 ②「旅行会社の正体」		

③ 書くこと 2年生			
事例9	単元名「何があったのかな」(12時間)		
【学びをつなげる時間の構想】			
時	本時の目標	学びのつながり	主な学習活動とICT機器の活用 ★：学びをつなげる ○：学習課題、発問
11～12	物語のおすすめのポイントを紹介し合う。	・「昔をふりかえっておはなす」(1年) ・「お話を聞いてみよう」(2年)	★これまでの学習をもとにして、工夫したところはあるかな。 ○物語のおすすめのポイントを紹介しよう。
学習の様子	<p>2年 国語「何があったのかな」</p> <p>「昔をふりかえっておはなす」(1年)の学習で、おはなしづくりの楽しさを体験した。また、お話を聞いてみようという学習を通して、お話を聞いて楽しむことができることを学んだ。</p> <p>オクリンクでカードを作り、友達同士で読みあわせしあった。</p> <p>国語「何があったのかな」</p> <p>おすすめポイント お母さんが、プレゼントもらったミシンでふんをつくってみんなでお話しているところ。(りゅう) お母さんがやさしいところが好きです。ぜひ読んでください。</p> <p>おはなしのポイント お母さんが、プレゼントもらったミシンでふんをつくってみんなでお話しているところ。(りゅう) お母さんがやさしいところが好きです。ぜひ読んでください。</p> <p>おはなしのポイント お母さんが、プレゼントもらったミシンでふんをつくってみんなでお話しているところ。(りゅう) お母さんがやさしいところが好きです。ぜひ読んでください。</p>		
ふり回り	・○○さんも、誕生日の物語というのは同じだったけど、中の部分は全然話が変わって、おもしろかった。 ・物語を考えて書くのは大変だったけど、完成してうれしかった。		
成果	・オクリンクの提出ボックスは、子ども自身も他の子が提出したカードも閲覧できる。そのため、紹介カードを作り終えた子から、友達のカードを見るように促した。直接的な対話があまりできないときであっても、色々な考えに触れることができた。 ・1年生の学習内容が2年生後期の学習につながっていることがわかった。		
課題	文字を手書きで入力することに慣れてきているが、子どもによって作成時間に差があり、難しい子も少なくなかった。		

② 読むこと(説明的な文章) 3年生			
事例6	単元名「合同としるし」(8時間)		
【学びをつなげる時間の構想】			
時	本時の目標	学びのつながり	主な学習活動とICT機器の活用 ★：学びをつなげる ○：学習課題、発問
1	概要をつかむことができる。	・「ミラクルミルク」(3年)	★説明文を読むときのポイントは、どんなところだろうか。 ○概要をつかもう。(三群構成・問の文・事例・主語に着目)
5	文章構成の特徴に気づくことができる。	・「ミラクルミルク」(3年)	★「ミラクルミルク」と比べて、似ているところと違うところはどんなところだろうか。 ○「合同としるし」の説明のしかたのくちょうは、どんなところだろうか。
学習の様子	<p>【事例1】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例2】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例3】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例4】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例5】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例6】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例7】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例8】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例9】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例10】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例11】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例12】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例13】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例14】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例15】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例16】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例17】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例18】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例19】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例20】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例21】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例22】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例23】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例24】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例25】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例26】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例27】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例28】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例29】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例30】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例31】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例32】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例33】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例34】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例35】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例36】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例37】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例38】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例39】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例40】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例41】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例42】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例43】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例44】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例45】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例46】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例47】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例48】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例49】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例50】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例51】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例52】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例53】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例54】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例55】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例56】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例57】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例58】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例59】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例60】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例61】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例62】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例63】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例64】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例65】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例66】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例67】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例68】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例69】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例70】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例71】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例72】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例73】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例74】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例75】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例76】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例77】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例78】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例79】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例80】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例81】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例82】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例83】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例84】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例85】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例86】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例87】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例88】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例89】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例90】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例91】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例92】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例93】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例94】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例95】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例96】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例97】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例98】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例99】おはなしのあらすじをまとめる。</p> <p>【事例100】おはなしのあらすじをまとめる。</p>		
ふり回り	上記のふり回りカードは、授業者の想定では1枚であったが、2枚になった。これは、子どもが2つの説明文を比べながらさまざまな特徴を見出したからである。以前の学習と本単元の学習がつながることで、読みが深まった。		
課題	今回は、内容量が多いカードについては、子どもの発言を授業者が打ち込んでいった。端末に保存することで、ノートがなくても見直すことができるよさはあるが、現段階では、個々ですべてのカードを作成することは難しい。ノートの写真を残すこともしているが、見直しやすさの関係からどのように保存していくか今後も検討が必要だと思った。		

【資料9】研究授業の歩み

令和3年度 研究授業		
	仮説1に関するまとめ	仮説2に関するまとめ
第1回 校内研究授業 7月5日(月) 3年1組 野田 和紀 教諭 算数科 「たし算とひき算」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題の言葉からずれていかないように、授業者は発する言葉に気を付けていく必要がある。学習課題の言葉は、授業の幹となる。 ・ 資質・能力を身に付けるために、どのようなICT機器の活用方法があるかについて、具体的な活用方法の研修や子どもの姿を通して考える研修機会を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返りの定型文の有効性を実感できたので、早速できるところから全校で実践していきたい。 ・ 今回の校内研究授業の大きなテーマであった、課題設定からふり返し場面までの「東小の基本的な授業スタイル」を、日々積み重ねていくことを共通認識できた。
第2回 校内研究授業 9月6日(月) 5年1組 藤本 貴博 教諭 社会科 「わたしたちの暮らしと水産業」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人1台端末上に残すものと、紙のノートに残すものは、それぞれどのようなものなのかというノート指導の在り方についても、授業者は構想を練る必要がある。学習課題・まとめ・ふり返りをノートに書くことは共通理解事項として、課題追究場面について重点的に研修を深めていきたい。 ・ 各グループから、ICT機器をこういった形でも活用できるのではないかという案が出された。各教員が、普段の授業で積極的にICT機器を使い、さまざまなツールのよさを実感できていることが伺えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題追究やふり返りの時間を考えると、導入のスリム化は必須となる。授業者がそうしたいと思うあまり、子どもの思いと学習課題がずれてしまうときがある。 ・ 子どもたちが、身に付けた資質・能力を自覚するとともに、次の時間にはこれを学びたいという思いをもつことが、「学びを調整する力」を高め、ひいては授業の導入部分の充実にもつながると考えられる。
第3回 校内研究授業 10月13日(水) 3組 浦江 真美子 教諭 国語科 「4コマまんが作文」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書画カメラを用いる本時の発表スタイルは、特別支援学級の児童数や児童の実態(学び方・コンピュータスキル)に合ったものであった。 ・ 個の意見を全体に提示する際は、発表者の誤答に対する配慮など、発表者の学習意欲や自己肯定感、学級の間人間関係を損なうことがないように気を付けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決型の授業とめあて型授業の話題が挙げたが、いずれにしても大切なことは、その単元内のその時間で子どもたちがどのような力を身に付けるのかということである。そこから逆算すると、子どもの思考に沿った道筋が見えてくる。

	仮説1に関するまとめ	仮説2に関するまとめ
第4回 校内研究授業 11月19日(金) 1年1組 土屋 博彦 教諭 算数科 「ひき算」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者が、子どもたちの学ぶ姿を想定して自作教材を作成し、その提示の仕方を工夫していた。学習場面に適したソフト・アプリは何か、どのように活用すべきかを考えながら授業づくりをしたことが、意欲的に学ぶ子どもの姿に確実に繋がった。 ・「10のまとまりに着目する」という数学的な見方、「既習事項を使って考える」という数学的な考え方を引き出しているところも重要である。 ・ICT機器を個々で使う段階から、相互比較や全体共有へと進展した。ここで生まれる学習者どうしのつながりは、協働的な学びを生み出す可能性に満ちている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項である15-3との比較も相まって、子どもから課題意識が出てきていた。
第5回 校内研究授業 12月8日(水) 4年1組 工藤 裕平 教諭 体育科 「テニピン」	<ul style="list-style-type: none"> ・共同編集やダウンロード機能を生かした、オフラインの体育館でも実現可能なICT機器の活用法の提案となった。 ・個別最適な学びと協働的な学びについて話題に上がったが、1時間の授業の中でという視点とともに、単元の中でという広い視点ももって、推進していくことが大切であると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のふり返りの提示や、ワークシートの内容の工夫によって、学びをつなげながら思考し、学習に取り組む子どもたちの姿が見られた。 ・今後大切であるのは、単年度の学びで終わるのではなく、系統性を生かして学年間のつながりを生かした学びへと深化させていくことである。
第6回 校内研究授業 1月20日(木) 2年1組 米澤 茜 教諭 国語科 「お手紙」	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働学習を促進させる」ICT機器の「効果的な」活用について改めて考え直すよい機会となった。タブレット端末を使った授業のイメージが広がってきているからこそ、身に付けたい資質・能力とつながっているものなのかを見極めること、授業の本質へ迫ることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習記録が、学習者だけでなく指導者にとっても有益であることが改めて実感できた。授業者が、ふり返しなど子どもの学習記録を丁寧に見届けていることで、それまでの授業の子どもの考えを本時の授業につなげて引き出すことができていた。 ・今後、子ども自身が学びをつなげる力を伸ばせるよう、研修を続けていきたい。

令和4年度 研究授業		
	仮説1に関するまとめ	仮説2に関するまとめ
第1回 校内研究授業 5月18日(水) 5年1組 沢田 恭介 教諭 国語科 「東京スカイツリーの ひみつ」	<ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクを使った教材で、動かしやすい・視覚的に分かりやすいという紙面以上のよさが感じられた。 ・授業の基本として、共通理解したい押さえどころを逃さないようにしたい。教材研究の段階から、身に付けたい資質・能力と関連付けて、子どもがじっくり考えたいところはどこであるかを想定しておきたい。今回は、「事例」とは何かを押さえることで、より多くの子どもたちが、どのような事例が書かれているかということをしつくりと考えることができたと思われる。 ・協働的な学習に進む前の段階で滞る研究授業が続いているので、次回の課題としたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、「学びをつなげる時間」に関する研究を深めていく視点として、次のようなものがあると考えられる。 「どのような学習記録を残すのか」 「どの単元の学習記録を使うのか」 「教師が進めるものと子どもが進めるものの、学びをつなげる時間の区別」 「第1時以外での学びをつなげる時間の実践」 ・今回の大きなテーマであった「学びをつなげる時間」の実践について、前向きな意見が多かった。いきなり完璧な実践を求めるのではなく、実践を重ねてブラッシュアップしていけるように、全体で取り組んでいきたい。
第2回 校内研究授業 6月29日(水) 3年1組 藤本 貴博 教諭 社会科 「店ではたらく人」	<ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学習を進めるうえで、自分の立場を明確にするのための一つの手立てとして、オクリンクのカードを用いたものは有効であった。 ・同じ立場・異なる立場という意図的な対話場面を通して、子どもの考えの広がりが見られた。 ・考えを広げる・深める「対話」になるように、何について・どのように伝え合い議論するのかを、自分ごととして理解して参加できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りの中で、「もっと～したい」という学びのつながりの種が生まれた。ふり返りの記述の型を示す有効性が感じられた。 ・これまで、単元間での学びのつながりを意識した研究実践が多かった。それと同時に同一単元内での学びのつながりや、他教科との学びのつながりについても研修を深めていきたい。
<p>★青木指導主事のお話の中で、「主体的にICT機器を使いたくなる授業を構想する」というものがあつた。そのような好循環に入っていくには、子どもたちや教師が①それぞれのICT機器やソフトの特長を知っていることや、②ICT機器を使った学習の成功体験を積んでいることが土台として求められるのではないかと考えた。これは、本研究の2つの仮説に通ずるところがある。</p>		

第3回

校内研究授業

9月16日（金）

6年1組

岩瀬 好幸 教諭

国語科

「名づけられた葉」

- ・ 東小の対話の2つの視点でふり返ると、本時のジャムボードの学習活動は、
[広げる]互いの考えを効率的に伝え合うことができ、**自分の考えを「広げる」**ができていた。
[深める]互いの考えを比較し、似ているところや異なるところに気付いて読み取った内容を関連付けてまとめるといった「**深める**」段階までは進まなかった。
- ・ 言葉を根拠にして考えをまとめるという**国語科の本質を押さえたICT活用実践**であり、今後、さまざまな教科の指導で押さえたい要点を押さえていた。
- ・ **子どもたちのICT活用能力の高まり**が、授業の可能性を広げている。昨年度から今年度にかけての積み重ねを強く感じた。

- ・ ふり返りに、①**同一単元内での学びのつながり**、②**単元間の学びのつながり**、③**教科を越えた学びのつながり**が表れていた。授業者が、**単元構想やふり返りの形式を工夫している**ことで、子どもたちがすばらしい学びのつながりを生み出している。

★青木指導主事のお話の中で、「**協働的に学ぶ必然性**」と「**ICTを使う必然性**」の双方を押さえることに関するお話があった。身に付けたい資質・能力の育成へつながるものであるかという本質を見失ってはいけないと改めて感じた研修であった。

(4) 伊東市教育委員会

1 推進校への支援内容

- ・学校等支援研修（5月18日、6月29日、9月16日）や研究発表会（11月16日）について、静東教育事務所と連絡調整を図った。
- ・3回の学校等支援研修を参観し、研究の進捗状況を確認した。

2 研究成果等の周知について

- ・ICT教育部会等で、学校等支援研修後の研修まとめを配付した。
- ・研究発表会（11月16日）を設定し、市内外の学校から参観者を募り、授業公開や分散会で研究成果を発表した。
- ・第2回伊東市研修主任研修会で指定研究を通しての成果と課題、研修主任の役割等、報告を予定している。
- ・C4th（校務支援システム）書庫に伊東市研究集録として掲載を予定している。

3 その他

(1) ICT教育部会の開催（6月、11月、2月）

- ・ICT活用の状況について情報交換
- ・ICT活用推進のための課題共有と具体策の検討
- ・家庭のICT環境調査

(2) 研修主任研修会（4月、2月）

- ・ICT活用事例等の情報提供
- ・ICT活用の状況について情報交換

イ 御殿場市

(7) 御殿場市立南中学校

1 2年間の取組の状況

(1) 令和3年度までの取組

「生徒も教師も学校生活で気兼ねなくタブレットを活用する」

① 講師を招聘してロイロノート活用研修

令和2年度…・静岡大学教育学部准教授 塩田真吾 先生

『「ICTは便利」を超えて、「ICTを使って、どんな力を育てるか」』

令和3年度…・日本大学三島高等学校 大川幸祐 教諭（ロイロノート認定教諭）

『タブレットは文房具～上手に活用して、生徒も教師も効率的に』

・静岡大学教育学部准教授 塩田真吾 先生

『ICTを「使う」から「使いこなす」へ』



ICT活用の前に、学習場面を深く考える

② 提案授業の実施

令和2年度…・学級活動(情報担当教諭)

『SNSにおけるコミュニケーションを見直そう』

・社会科(研修主任)

『裁判員制度の意義について考える』



タブレット端末を用いてSNSのやり取りを再現



自分の意見を発信／仲間と共有

令和3年度…・道徳科(道徳科主任)

『「思いやり」を考えることを通して』

・理科・英語科・社会科(指定研究中間発表にて公開)



意見の共有／深化／再構築



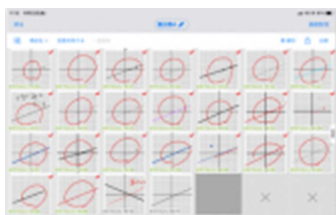
プレゼンテーション作成



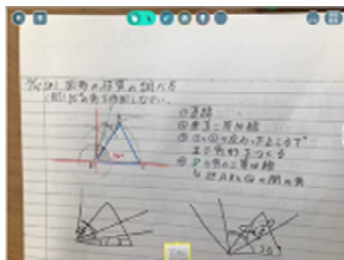
タイマー／データ入力／表計算

- ③ 教科研修チームによるロイロノート活用方法の作成
 授業における具体的な活用場面を決め、操作方法を覚えることで、全ての教員がタブレットを活用できるようにした。
 (別紙資料参照)
- ④ 南中版タブレット端末活用ステップアップシートの作成
 ロイロノート、Zoom、タブレット端末の基本操作、情報モラル指導について、レベル別に一覧表にすることで、個々の教員のタブレット端末活用スキルの向上に努めた。
 (別紙資料参照)
- ⑤ 週1回の校内相互授業参観日の実施

【数学科】



提出された解答を教師が添削



ノートを撮影／共有して説明



生徒の理解度に応じた演習問題

【英語科】



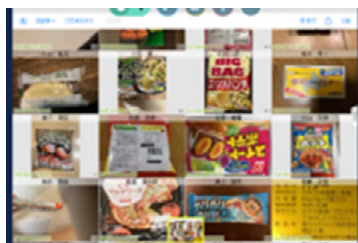
カードで英文の並べ替え



少人数グループでプレゼンを作成／発表



【家庭科】



家庭にある食品のラベルを撮影／持ち寄ったものを授業でのグループ学習に活用



- ⑥ 授業外でのタブレット端末の積極的な活用
- ・オリパラ推進事業講演会 車いすラグビー 若山英史 選手
 - ・PTA教育講演会 株式会社ネットマンCEO 永谷研一 氏
 - ・ロイロノートのアンケート機能を活用した学校評価 (生徒・保護者・教員)
 - ・生徒会活動、部活動での活用 (動画撮影・編集、ミーティング等)



若山選手の講演会



永谷氏「できたことノート」タブレット端末で参加型講演会を実施



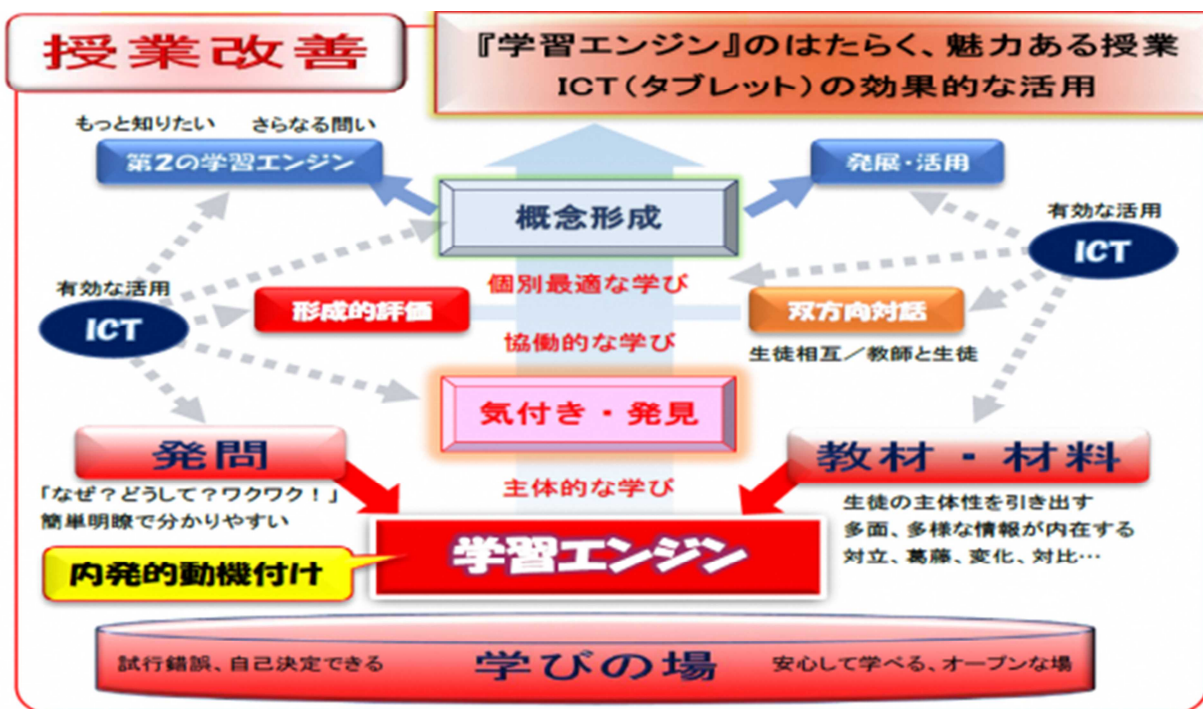
(2) 令和4年度の取組

「タブレット活用中心の研修から、授業改善（主体的・対話的で深い学び）中心の研修へ」

① 『学習エンジン』の考えに基づいた授業づくり研修

学習エンジンとは、車のエンジンをかけるように、生徒の「知りたい・やってみたい」という思いに火をつけ、主体的な学びを促すということ。（学習への内発的動機付け）

授業改善へ向けた構想図



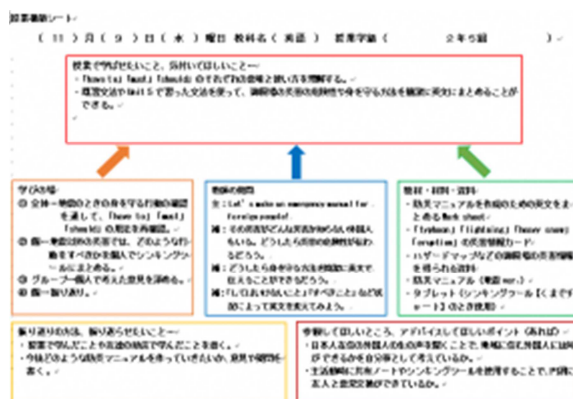
・全ての教員が以下のポイントを意識した授業づくり、授業実践を行った。

- ・ 試行錯誤や自己決定の場が保証されるオープンな「学びの場」
安心して学べる学習環境だけでなく、授業において生徒が必要感を持って取り組むことのできる学習形態（少人数グループ・ペアなど）の在り方を考える。
- ・ どの生徒にも何をするのが明確で、なぜ? どうして? が内在する「発問」
授業での初発問、主発問、補助発問が、生徒の主体的な学びや対話的な学びにつながるものにする。
- ・ 生徒の主体性を引き出し、多面・多様な情報の内在する「教材・材料・資料」
多面・多様な情報が内在し、追究活動や対話が活発になり、深い学びにつながる教材や資料、教具を準備する。
- ・ 「個別最適な学び」や「協働的な学び」につながる ICT の活用
効率的で分かりやすくなるアプリケーションの活用や、生徒の意見を共有し、整理したり対話が加速されたりする活用法を探る。
ICT を活用することで、劇的に授業が変わったり、学力が向上したりすることはなく、今まで埋もれていたものを表に出し、今までよりも分かりやすくすることを意識する。
- ・ 生徒の振り返りを生かした授業改善
生徒が自身の学びを振り返ったり、それを基に学びを調整できたりする振り返りを行う。また、それを次の授業や授業改善に生かす。

② 校内相互授業参日の充実

- ・授業構築シート…・学習エンジンの考えに基づいた授業づくりができる。
 - ・授業の目標や授業づくりの意図を事前に把握したうえで参観を行うことにより、参観の視点を明確にする。
- ・授業参観シート…・授業者へのフィードバックがきちんに行える。
 - ・他の教員の授業参観シートを見られるようにすることで、自身の授業改善に生かすことができる。

授業構築シート



「学びの場」「発問」「教材・資料」について一目で分かるようになっている。「アドバイスしてほしいところ」も記述しておくことで、参観者の視点がより明確になった。

授業参観シート



授業構築シートを基にして、授業中の生徒・教員の発言やあらわれを記載する。意図した授業がどのように展開されていたか、反省点が明確になり、授業改善が加速される。

2 2年間の成果のまとめ

(1) 成果

① 授業においてタブレットを活用することが当たり前になった。

令和4年度全国学力・学習状況調査 [生徒質問紙] より (対象：3年生、数値は全て%)

◎1、2年生の時に受けた授業で、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1以上	月1未満
本校	64.9	25.2	4.8	0.7	0.0
静岡県	29.3	30.5	27.2	9.9	2.9
全国	21.6	29.3	29.7	14.2	5.0

◎授業の調べる場面での使用

	ほぼ毎日	週3回以上	合計
本校	48.3	40.8	89.1
静岡県	18.2	30.5	48.7
全国	12.3	24.9	37.2

◎授業の意見交換の場面での使用

	ほぼ毎日	週3回以上	合計
本校	36.1	41.5	77.6
静岡県	7.4	17.5	24.9
全国	5.0	12.8	17.8

◎授業のまとめ・発表の場面での使用

	ほぼ毎日	週3回以上	合計
本校	25.9	48.3	74.2
静岡県	6.3	13.2	19.5
全国	4.7	10.3	15.0

- ・日常的に授業のあらゆる場面においてタブレット端末が活用されていた。
- ・特定の教員だけでなくあらゆる教員が授業でタブレット端末を活用していた。

- ② 生徒は授業において、タブレットを文房具の一つとして活用し、その結果、理解度が上がり、学習が深まったと実感している。

タブレット活用アンケートより（対象：全校生徒、数値は全て%）

◎授業中にタブレットを活用する際、操作に不安はありますか。

	まったくない	ほとんどない	少しある	ある
1 学年	62.3	28.1	9.6	0.0
2 学年	47.6	36.1	13.0	3.2
3 学年	60.6	33.4	4.1	0.7
全校	89.6		10.4	

◎授業でタブレットを活用することで、理解度が上がり、学習が深まっていると思いますか。

	とても思う	ある程度思う	あまり思わない	まったく思わない
1 学年	62.2	33.3	3.5	0.8
2 学年	40.3	53.2	5.6	0.8
3 学年	50.3	46.3	1.4	0.6
全校	95.3		4.7	

- ・画面共有で、より詳しく内容を理解することができた。
- ・先生の画面配信による解説で理解度が上がった。
- ・共有ノートを使用することで、グループの意見を簡単にまとめることができた。
- ・タブレットだとノートのようにまとめられず、復習に使用するのに不便だった。

- ③ 授業改善とタブレット活用が、生徒の学習意欲を高めることにつながっていた。

令和4年度全国学力・学習状況調査〔生徒質問紙〕より（対象：3年生、数値は全て%）

◎1、2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか。

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	合計
本校	36.7	50.3	87.0
静岡県	29.9	49.5	79.4
全国	31.2	48.0	79.2

- ・授業改善に向けて継続的に取り組んできた結果、生徒の主体的に学び、課題を解決しようとする姿勢の育成につながっていた。

◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	合計
本校	41.5	47.6	89.1
静岡県	31.8	46.9	78.7
全国	31.4	45.5	76.9

- ・タブレットの活用により、今まで埋もれていた多様な意見が出されたことで、深い学びにつながっていた。
- ・年度当初に共有したタブレット活用の授業イメージが実現化した。

- ④ ほぼ全ての教員が授業や学校生活のあらゆる場面でタブレットを活用している。

- ・南中版タブレット端末活用ステップアップシートによる現状把握と、付けたいスキルの明確化ができた。
- ・校内授業参観日等で、タブレットを活用している教員が手本となっていた。

- ・生徒がタブレットの操作方法や活用スキルを身に付けているため、教員のサポートができた。

学校でのICT・タブレットの活用例（一部）

- ・生徒の欠席連絡受付
- ・生徒、保護者へのアンケート、お便りのペーパーレス化
- ・学年行事のしおりのペーパーレス化
- ・学級閉鎖、出席停止生徒への遠隔授業
- ・係活動（学校祭の係別活動時）
- ・学級での話し合い活動（ロイロノート共有ノート）
- ・部活動での連絡、ミーティング等
- ・委員会活動（ポスター制作、テスト予想問題作成）
- ・朝昼の校内放送（ライブ集会、動画撮影、編集）

⑤ 教員の『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善への意識が高まった。

◎研修を通して、授業改善への意識が高まりましたか。（対象：全教員、数値は%）

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
該当者	78.3	21.7	0	0

- ・授業は常にアップデートし、タブレットの有効活用、効率化を研修している。
- ・校内研修を受けて、学習エンジン、ICT活用という視点で単元構想を意識するようになった。教員の意識を変える必要があることを常々意識している。
- ・「学習エンジン」という言葉を意識して教材研究するようになった。校内授業参観によって先生方の授業から学びを得られた。
- ・タブレット活用や生徒の対話を意識して授業をつくることを意識した。

(2) 課題

① 授業においてタブレットを活用することが、学力の向上につながっているのかについては、今後更に検証していく必要がある。

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査の3教科の結果が、全国や静岡県と比較すると低い数値になっている。
- ・また、国語における漢字の書き取りや、数学の素因数分解などの単純な問題については正答率が高いものの、読解が必要な問題や複雑な思考を伴う問題、記述式の問題などでの正答率が低く、本校生徒の特徴が顕著に表れた結果となった。
- ・情報活用能力を高めていくことで、学力の向上の可能性があると分かったので今後の研修に生かしていく。

② 学校生活の中のあらゆる場面でタブレットを活用しているにも関わらず、家庭学習の際に活用できていない。

- ・生徒が自身の学びを調整するために、タブレット内に保存されている授業で使用したファイル等がきちんと整理されているのか、学習の積み重ねが分かるようになっているのか等、教科で十分に指導していく必要がある。

タブレット活用アンケートより（対象：全校生徒、数値は全て%）

◎家庭学習の際にタブレットを活用していますか。

	ほぼ常にする	ときどきする	あまりしない	まったくしない
1 学年	0.8	41.2	46.5	10.5
2 学年	4.1	42.7	36.3	14.5
3 学年	5.4	28.6	37.4	26.5
全校	40.5		59.5	

③ 情報モラル、メディアリテラシーなど、生徒を取り巻くメディア環境を整える必要性がある。

生徒たちは1日の中の多くの時間でメディアに触れている。便利であると同時に、様々なトラブルも同時に起こっているのも事実である。日常生活に欠かせないものになっているからこそ、今後、学校や家庭において情報モラルを養い、メディアリテラシーを高める教育を同時進行で行っていくことの重要性を強く感じている。

(別紙資料) 南中版 タブレット端末活用ステップアップシート

		ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	教科研修チームで計画した授業におけるロイロノート活用方法	
ロイロノートの活用 	授業内での活用	<input type="checkbox"/> ロイロノートで自分の授業を設定することができる。 <input type="checkbox"/> 生徒が授業に参加できるように指導できる。 <input type="checkbox"/> 生徒に課題を提出させることができる。 <input type="checkbox"/> 提出された課題を生徒間で共有させることができる。 <input type="checkbox"/> 授業内での調べ学習に活用できる。	<input type="checkbox"/> ロイロノート内で使用するテキスト等の作成ができる。 <input type="checkbox"/> 生徒に画像や資料を送ることができる。 <input type="checkbox"/> ロイロノートを使って教師と生徒共に説明できる。	<input type="checkbox"/> 提出されたものを比較したり、関連付けたりしながら説明できる。 <input type="checkbox"/> 観察やまとめ作業などを画像と文章とでまとめさせることができる。 <input type="checkbox"/> パソコンから映像などを取り込み資料提示などに活用できる。 <input type="checkbox"/> 生徒が提出した課題を添削して返却できる。 <input type="checkbox"/> 話し合い活動で生徒の考えを集計できる。	<input type="checkbox"/> 動画教材を作成し、授業で活用できる。 <input type="checkbox"/> シンキングツールを用いて話し合い活動ができる。 <input type="checkbox"/> 製作や思考の過程をロイロノート上に保存したり、振り返りをロイロノートに提出させ、教師が確認し、次時の支援に活用したりすることができる。	教科	活用方法
	授業外での活用	<input type="checkbox"/> 欠席した生徒に予定等を伝えることができる。	<input type="checkbox"/> 資料箱の「マイフォルダ」のデータを整理している。 <input type="checkbox"/> 部活動で練習の様子を記録しミーティング等に活用できる。	<input type="checkbox"/> アンケート機能を使用して生徒にアンケートを行うことができる。 <input type="checkbox"/> アンケート機能を使用して集計したものを活用できる。 <input type="checkbox"/> テスト機能を使用して、テストを行うことができる。	<input type="checkbox"/> 生徒会本部や専門委員長にロイロノート上に資料を提出させたり全校生徒が参加できる授業を設定したりすることで、生徒総会や生徒会選挙などの生徒会行事で活用できる。	国語	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションやスピーチを撮影し、振り返りに使用。 意見を集約し、集約された意見を基に話し合い活動を行う。 古典教材で手本の朗読を聞いたり、自分の音読を録音して練習。 書写の授業で手本を提示。
ZOOM活用 		<input type="checkbox"/> ZOOMミーティングに参加し、研修などを受けることができる。	<input type="checkbox"/> ZOOMミーティングを自ら作り、会議を開くことができる。(休校時の朝の会程度)	<input type="checkbox"/> 授業や会議の状況に応じてミーティングの設定ができる。 <input type="checkbox"/> 画面のブロードキャストを行い、資料等を映しながら説明できる。	<input type="checkbox"/> 休校時など、ZOOMを用いて資料提示や生徒に発表を求めするなど、学習の補充ができる。	社会	<ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考えるためのツールとして使用。 資料提示。 Webを使用しての調べ学習。 自分の意見をまとめる。プレゼン資料の作成。
		<input type="checkbox"/> iPadを起動し、アプリを開くことができる。 <input type="checkbox"/> 文字の入力やタッチなどの基本的な操作ができる。 <input type="checkbox"/> インターネットに接続して調べることができる。 <input type="checkbox"/> カメラ機能で画像や動画を撮影、保存できる。 <input type="checkbox"/> タイマーを使用できる。 <input type="checkbox"/> QRコードを読み取り、ウェブに接続できる。	<input type="checkbox"/> タブレット画面を教室のモニターに映すことができる。(ミラーリング等) <input type="checkbox"/> 画像を編集し、授業で活用できる。 <input type="checkbox"/> 家庭に持ち帰り、eライブラリなどを用いた学習を行わせることができる。	<input type="checkbox"/> eライブラリで生徒の学習状況を確認することができる。		数学	<ul style="list-style-type: none"> 提出箱を使用した生徒の解答の添削。 生徒の解答を学級全体で共有。画面に書き込んだのポイント確認。 個別にヒントカードの送信。
iPad操作情報モラル 		<input type="checkbox"/> タブレット端末は文房具として扱うものであるという指導をしている。	<input type="checkbox"/> タブレットを使うときにはアカウント情報などの個人情報を守るよう指導している。	<input type="checkbox"/> 南中版「タブレット使用ルール」に則った指導を確実に行うことができる。	<input type="checkbox"/> 状況に即した情報モラル指導がすぐにできる。	理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験レポートを写真に撮って提出。予想や結果の共有。 前時の振り返り。 板書を撮影し、それを用いた復習授業。 動物や植物等のグループ分け。原子モデルの共有。
						英語	<ul style="list-style-type: none"> 音声と画像を録画し、発音の練習や振り返りに使用。 空欄補充や並び替えなどの単純なテスト。 SNSのやりとりの場面を実演しながら学習。 英作文を作成する際に辞書として使用。 プレゼン資料(Web上の画像を利用した)の作成。
						保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の動きを撮影して、客観的に観察。 単元の中での変容が捉えられるように、学習の記録を残す。 上手くなったポイントをテキストにして残す。
						美術 技術 家庭 音楽	<ul style="list-style-type: none"> 制作の様子を記録し、制作過程を確認。 生徒同士での作品の鑑賞。 映像資料などの提示。

※ 左の表で自分ができものにはにチェックを入れます。

令和4年 月 日

氏名

(イ) 御殿場市教育委員会

1 推進校への支援内容

- ・担当指導主事が校内研修への参加、地域支援課の学校等支援研修等を行い、教頭、研修主任と取組内容の確認等を行った。
- ・南中学校の電波状況について、教育総務課教育 ICT スタッフを中心に通信業者と連携し、校内の電波状況の調査・改善等を行った。また、その他、端末等の不具合が生じた際の対応についても教育総務課教育 ICT スタッフを中心に業者に連絡、改善を図った。
- ・教材アプリの導入。

2 研究成果等の周知について

- ・市ホームページ内にて、実施要項等を掲載し、閲覧できるようにしている。
- ・教育委員会発行の「学校教育課だより かけはし（教育委員会便り）」内にて、該当校の研究発表会の概要等を紹介した。市内公立幼稚園、小学校、中学校に配付した。
- ・市内研修主任者研修会（含御殿場市学力向上連絡協議会）において、南中学校の研修主任に、本発表当日の研究成果等発表と同様の内容を、事前に御殿場市学力向上委員会委員、各校研修主任または全国学力・学習状況調査の結果の改善において校内で推進的な立場にある者を対象に発表をしてもらい研究を広げた。また発表の後、全国学力・学習状況調査の市の結果も踏まえ、授業や研修について情報交換を行った。

3 その他

「令和4年度第2回 ICT 活用変容調査（遠鉄システムサービス）」による本市小中学校教員の ICT 活用の活用頻度の変容について（対象：小中学校教員 537 人 回答率 63.69%）

項目 1	iPad 活用頻度について					
	教員			子供		
	第 1 回	第 2 回		第 1 回	第 2 回	
毎日ほとんど使う	22.4	21.9		11.6	15.8	
毎日 2～3 限	27.6	32.4	← 4.8 ↑	27.4	26.6	→ 7.7 ↑
毎日 1 限程度	22.8	18.1		26.8	31.1	
週 2～3 限	13.2	16.2	← 3.0 ↑	20.0	19.8	
週 1 限程度	5.3	6.2		10.0	5.1	
ほとんど活用なし	8.8	5.2		4.2	1.7	

教員の活用頻度は「ほとんど活用なし」から「週 1 限程度」「週 2～3 限」へ、「毎日 1 限程度」の活用から「毎日 2～3 限」へ推移し、全体的に向上していることがうかがえる。また、子供の活用頻度も下位の 3 項目が減り、上位項目が増えている。「ICT は文房具」という認識が広がり、授業内で当たり前活用していることが本調査からうかがえる。本調査は 10 月末に実施した結果であるため、南中学校の研究発表を参考に、これから市内小中学校において、ますます ICT 活用や授業改善が広がっていくことが期待される。